

平成19年8月27日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市長 田 村 弘

市立病院建替計画等調査特別委員会への説明員の出席について

平成19年8月8日付け滝議第64号で通知のありました市立病院建替計画等調査特別委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願ひします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願ひします。

記

滝川市長の委任を受けた者

理事	谷田部 篤
市立病院事務部長	東 照 明
市立病院事務部事務課長	鈴 木 靖 夫
市立病院事務部事務課改築準備室長	菊 井 弘 志
市立病院事務部事務課改築準備室主幹	田 中 武 雄
市立病院事務部事務課改築準備室副主幹	配 野 英 夫
市立病院事務部事務課改築準備室主任主事	佐 藤 智 人
市立病院事務部事務課改築準備室主任主事	横 田 和 典

(総務部総務課総務グループ)

第5回 市立病院建替計画等調査特別委員会

H19. 8. 28(火) 10:00～
第一委員会室

○開 会

○委員動静

1. 調査事項について

- (1) 前回要求資料説明等について (資料)
- (2) 基本設計について (資料～基本設計書)

2. その他について

3. 次回委員会の日程について

9月3日(月) 10:00 第一委員会室

○閉 会

第5回 市立病院建替計画等調査特別委員会

H19. 8. 28(火)10:00～

第一委員会室

開 会 10:01

委員動静報告

委員 長 酒井委員欠席。中田議長。委員外議員～窪之内、清水、関藤、山腰、水口。空知新聞社の傍聴を許可。

1 調査事項について

(1) 前回要求資料説明等について

東 部 長 (別紙資料に基づき説明する。)

委員 長 報告が終わった。質疑はあるか。(なし)

(2) 基本設計について

田中主幹 (別紙資料に基づき説明する。)

委員 長 報告が終わった。前回の特別委員会でも話をしたが24日に机上配付しているので目をとおしていると思う。質疑はあるか。

渡 辺 継続している諸問題は解決していないと思う。今の説明についての質疑は次回にしたいと思う。市民懇談会での意見で市長は各所で、市民から出た貴重な意見は今後の提案にしんしゃくをしていきたいと答弁をしている。今回の基本設計で市民意見を受け入れている部分はどこなのか示していただきたい。工事概算書で工事費の合計74億960万円は基本計画と同じである。市民から財政上で大丈夫なのかという意見に答えていない。このことについて伺いたい。

委員 長 休憩する。

休 憩 11:08

再 開 11:12

委員 長 再開する。

渡 辺 市民懇談会で意見が出たことについて修正、しんしゃくするのか。

東 部 長 5カ所で市民懇談会を開催した。さまざまな質問があったがすべてに答えたと思うが、それらの意見を踏まえてよりよい計画にするための協議をしていく。あわせて理解の不十分な部分についてしっかりと市民理解を得ていく。前回の特別委員会でも説明したが、9月広報に折り込みを入れて、再度疑問点の多かった部分について市の考えをしっかりと説明したので理解願いたい。具体的に基本計画をどのように変更したかについては、個々に答えることはできない。トータルな中で心配があったということを知り、適切であるのか再度内部検討した計画である。工事費については上限として考えていきたいが、これから実施設計の中で少しでも安くできるものがあれば努力していきたい。

渡 辺 市長が答弁をしているので説明済みということであり、市民理解を得るために9月広報で折り込みをしたいということである。基本設計そのものには意見があったが変更したところはないと理解していいのか。トータルの中では市民意見をしんしゃくしていく意味で確認していいか伺いたい。

委員 長 他に質疑はあるか。

田 村 ① 説明書の中で外断熱窓、内断熱窓と書いてあるが、外断熱は樹脂サッシになっていて内断熱がアルミサッシになっている。逆だと思うが確認したい。

② 敷地の図面を見ると民有地があり角地が欠けている。45坪から50坪程度だと思うが、駐車場にした場合は15台ぐらいのスペースになる。角地が欠けているのは将来的にどうかと思う。45坪、50坪の購入金額であればわずかだ

と思うが、地権者との交渉内容と結果はどうなっているのか。将来的に取得すべきと考えるが意見を伺いたい。

田中主幹 ① 2-7-1 ページのサッシについては、外側がアルミサッシ、内側が樹脂サッシであるので訂正していただきたい。

委員長 休憩する。

休 憩 11:20

再 開 11:22

委員長 再開する。

田中主幹 ① 申しわけない。外壁を外断熱とし、サッシについては外側をアルミにして内側を樹脂サッシの二重にするということである。内断熱は断熱を内側にしてサッシについてはアルミサッシの一重ということである。病棟階については外断熱であり、1、2階の外来・診療部門については内断熱のアルミサッシの一重ということである。

委員長 このままでいいのか。

田中主幹 はい。

田 村 建築する場合は外側はアルミを使う。複合サッシでも外側はアルミサッシ、内側は樹脂サッシとなる。樹脂サッシを外側に使っているところはない。

田中主幹 外断熱については、病棟階が外側にアルミサッシ、内側に樹脂サッシの二重構造にする。複合ではなくアルミ、樹脂の単体を使うという意味である。外断熱は外側がアルミサッシ、内側が樹脂サッシと訂正していただきたい。

委員長 外断熱をアルミサッシプラス樹脂サッシと訂正していいか。

田中主幹 はい。

田 村 ② 5-4の配置図の民地を買い取りたいということで持ち主、仲介者といろいろ交渉をしたが、金銭的に高額要求があったことから購入を取りやめた。民有地は何坪なのか。金額はどれぐらいなのか。駐車場として15台は停めることができると思う。交渉して将来的に取得すべきだと思う。

田中主幹 正確ではないが約80坪ある。交渉金額で坪単価18万円から20万円であった。駐車台数は14台から15台は確保できる。

田 村 80坪を20万円で計算すると1,600万円となる。18億円なら考えることになるが、1,600万円ということだが、公共事業用地で税金がかからないことから15万円とか12万円など交渉して取得しておくべきだと思う。

東 部 長 この機会に取得して将来いろいろと発展性のあるものにしたいということで話をした。基本的な考え方は、滝川の地価下落率が高いことを考慮すると実勢価格で購入しなければ市民理解が得られないと考えている。実勢価格にふさわしいものであれば購入する姿勢で臨んだが、今の時点では乖離がありすぎた。これから着工するのでさらに地権者と交渉したい。

委員長 他に質疑はあるか。

山 口 ① 免震設計の強度が0.9という表現があるが、市民としては基準がわからないと思う。地震の場合に震度、マグニチュードでいくらまで耐えられる構造なのか。

② 非常用の自家発電があり3日間、72時間使えるようだが、病院全体の電気量を使える計算をしていると思う。72時間しか使えないのは非常用の型式としてはどのタイプで考えているのか。

③ UPSが必要だが、時間的に3時間程度で非常時に対応できるのか。

④ ユニバーサルデザインは道、国の基準で設計しているとのことだが、地元

の身障者協会の意見を取り入れてデザインを採用することは考えているか。

⑤ 冷暖房の燃料で安定的供給がA重油であると表現しているが、業界としては灯油が安定していると思う。災害時に灯油のタンクであれば地域内にたくさんあるが、重油のタンクは限られているので、すぐに対応できるのか。

⑥ 産婦人科の手術室が5階にわざわざとらしくついているが、産婦人科外来での診療後から5階に移動するのはありえないと思う。病院を建てて医師を呼び込む表現からすると産婦人科で5階に手術室を置くのはおかしいと思う。5階に設置した理由を伺いたい。

委員長
東部長

ページを言って答弁願う。

④ ユニバーサルデザインの考え方だが、滝川市内の障がい者団体の代表の方々と計画について意見交換をした。今後も必要に応じて開催していくことで双方理解している。実施設計の段階でデザインだけでなく、障害者用トイレの形式など具体的に意見交換をしていきたい。

⑥ 5-9産婦人科の分娩室については、産婦人科を標榜するためには、医療法上分娩室が備わっていなければならない。分娩室は滝川保健所と打ち合わせをして病棟側にあるのがふさわしいとのことから小児病棟のある5階に配置することとした。現在砂川市立病院へ産婦人科の分娩が集約されている状況にあるので、直ちに当院で分娩ができるのは難しい。標榜する上では分娩室の設置が必要である。

田中主幹

① 2-11-1の設計荷重0.9については、地震係数として滝川地区が建築基準法で0.9になっている。

横田主任技師

① 免震構造についての0.9は、地震荷重についての建築基準法の地域係数が0.9である。地震の起きやすい地域、地震のない地域を0.8から1.0の係数をもって表している指標で、震度とは密接な関係がない。建築基準法で要求されている基本構造はおよそ震度5強に耐えられることを目標に構造設計をしている。採用予定の免震構造については、震度5強を上回る形で安全性を確保したいと考えている。

委員長

休憩する。

休憩 11:41

再開 11:42

委員長
東部長

再開する。

② 3-2-2の非常用発電は連続72時間としているのは、北電からの供給が絶たれた時の対応であるが、院内の電気系統がすべて使えるわけではない。非常用発電に対応できる場所、コンセントは限定されている。72時間という表現は貯蔵している燃料を使いきるまでの時間である。燃料が補給されれば継続使用可能であり、補給がなくても3日間は連続運転可能だということである。

③ 3-1-1のUSPについては、停電になった場合にコンピュータ、医療機器のために瞬時に切りかわる無停電電源装置である。自家発電装置が動くまでの対応なので、数十秒の短い時間で十分だが、予備的時間を確保するものである。

⑤ 重油か、灯油については、長期的な維持管理経費を考えると大きな冷暖房設備についてはA重油を使用する方が価格的に有利な点を考慮した。

委員長
渡辺

他に質疑はあるか。

2-1-3の基本設計のスケジュールをみると4月から8月の5カ月となっているが、その意味は業者が設計している期間が5カ月ということなのか。市民

に提示をして了承されて次の段階に進むまでの期間を5カ月という解釈もできる。次の実施設計の期間にもかかわるので、基本設計のスケジュールが遅れたものなのか伺いたい。

東 部 長 昨年の補正予算で継続費の設定をした。基本設計、基本計画として2カ年にわたることとした。期間、金額について説明をして議会の議決をいただいて進めている。

渡 辺 基本設計の期間が8月末ということは、これからみるときに業者の方で検討、設計の期間が示されている期間であり、我々に示す時期と考えていいのか。

東 部 長 8月末までに基本設計ができあがるということである。特別委員会には少しでも早く見ていただけるように、最終チェック前の24日に配付している。最終納品は31日としているので了解いただきたい。

委 員 長 他に質疑はあるか。委員外議員はあるか。

清 水 ① 5階に分娩室が設置されている。標榜のためということだが、砂川市立病院は集産期センターで15床1,309平方メートルを使っている。けさの道新で道の自治体病院再編素案が出された。滝川圏域と砂川圏域が分かれる案が出されている。産婦人科の滝川の復活、小児科がきちんと残っていく可能性が出てきている中で伺いたい。今回の設計書では病棟面積8,609平方メートルである。もし産婦人科が復活すると1,000平方メートル程度は必要だと思うが、その時に代替できることを計画に組み込んでいるのか。

② トレーニング期を終了してから1年以上かけて駐車場を整備する。400台という駐車場は必要となるが、1年間どのように確保していくのかを伺いたい。また、駐輪場について屋根つき、屋外なのかについての考えも伺いたい。

③ 病室についてだが、深川市立病院は4人部屋でも出口に洗面所がついている。各室に車椅子が1台ずつ置いてあり、トイレもある。基本設計ではどのようになっているのか伺いたい。

東 部 長 ① きょうの新聞報道は、あくまでも北海道として医療資源をどう有効活用していくのか問題提起を含めたたたき台の考え方である。今後地域と協議をしていく中で、その地域にあった最もいい形にしていくことになると思うし、決定事項ではないと考えている。産婦人科については、平成16年度に北海道大学が主体となり医師の確保、勤務条件の改善など滝川、砂川、美唄、岩見沢を統合する案で進んできたものである。産婦人科の復活は容易なものではないと思っているが、分娩室は標榜するうえで確保することと産婦人科ができるようなことで考えていきたい。病室については、一般病床を産婦人科対応に変更することになる。新生児も病棟改修で対応可能である。将来に改修できると考えている。

② 駐車場の工事期間中の確保については、限られたスペースの中で建てかえをすることになるので、利用される方の利便性を失わないことで、工事期間中についても市立病院の周辺で今の駐車台数以上のものは最低限確保したい。その方法は検討中である。例えば新病院ができて既存の病棟解体時に路盤が落ち着くまでに時間も必要となることから、舗装については翌年になる。その間については今後詰めていくことになるが、深川は翌年の舗装であり舗装までの間、路盤を改良して活用している。代替駐車場を含めて検討したい。

横田主任技師 ② 駐輪場については、資料の5-4に配置図がある。一般駐輪場50台、職員駐輪場45台として屋根つきの駐輪場を計画している。

③ 病室については、約38平方メートルの大きさを確保しているが、4床室の

中には洗面スペースを確保している。他市の自治体病院などで病室の中にトイレが組み込まれている例がある。新病院の計画で検討をした結果、個室についてはトイレを病室に組み込むことで考えているが、多床室については基本的に病室内ではなく集合トイレで配置する計画である。図面では5-8にある。

清 水 産婦人科の病床だが、今後50年使うことになる。日本の医療制度がどうなるかわからないが、少なくとも安全安心のお産を保障することでいえば、いずれ組み込むことを予定する必要があると思う。予定しなければ必要な面積を広げられないことになる。病床数を絞って、患者数は減らない計画となっている。砂川並みに考えると病棟面積の15パーセントを確保するのは大変なことである。1,500平方メートルは今の図書館より広いスペースとなる。市役所でいえば1階、2階より広いスペースをどのように確保するのか。3年、5年先は無理かもしれないが、10年後に実行することになるときに病院が狭いのでつくれることになるかと患者に失礼である。新たに建設する余裕もないと考えるので再考を要すると思う。10年後の見通しを伺いたい。東部長は1年前の基本設計、基本計画の補正予算のときの質疑に対して、医師の確保は5年をめどにできると明言している。

東 部 長 5年後の医師確保については産婦人科という限定はしていない。医師の確保として今後5年間ぐらいが一番厳しい時期となる。産婦人科医の確保は簡単にはいかないかと繰り返し説明している。圏域の人口も減るということで批判も受けているが、高齢化は進むことになるので、潜在的な患者である高齢者の入院患者は減らない。産婦人科を含めた64歳以下の方については統計的に減るのは明らかである。10年後、20年後には分娩数自体も大幅に減ることも想定される。新たに面積が必要になるかはわからないが、将来的に柔軟に対応できるように考えている。例えば医療法においては、一般病棟と療養病床とでは基準面積が違うことになるが、基本設計では療養病床の基準を満たす面積は確保している。将来の医療政策でどのように変わるのかを考えているので理解願いたい。

委 員 長 他に質疑はあるか。

水 口 免震構造、耐震構造を選択するという話のときには、免震構造を選択するとコストがかかり現状では厳しいという説明を受けていた。最終的には金額が同等のことから免震構造を採用したとのことだが、免震構造がいいという判断に至る理由を伺いたい。

東 部 長 地震立国なので最近では建物の被害が多い状況である。建築基準法も変わってきており、新たな建築基準法に対応する建物が必要となっている。その中で新しい工法として免震構造が生まれてきた。これについては全国的に実績もあり、地震があった場合は免震構造によって揺れが軽減できる。免震構造を採用するメリットとしては患者の安全確保がされやすい。耐震構造は地面と同じように揺れることになり、建物が崩れないような強度を保つことになるが、破損をする可能性がある。また、上層階は揺れが激しくなることもある。免震構造については地盤と建物を分離して揺れを極力軽減することになり、非常に揺れが少なく、建物の損傷を少なくすることができる。あわせて医療機器の倒壊、落下を防ぐことができる。耐震構造になると耐震壁が必要であり、将来の内部改装などに支障が生ずることから柔軟な対応に制約を受けることとなる。免震構造は耐震壁がなくても柱で強度が保てることとなり、改修など柔軟性が保たれる。

水 口 コスト的な部分で同等の金額でできるようになった理由を伺いたい。免震構造の場合は基礎部分が地震に耐え得る構造になっている。増築する場合に基礎部

横田主任技師 分の面積がふえることになるが、対応ができることになるのか伺いたい。
金額については、免震構造にすることによって上部の構造がスリム化できるメリットがある。耐震構造であれば地震の揺れを上部も含めてしっかりと耐え得る強度にしなければいけない。免震構造は免震層を設けることによって揺れを軽減できることになり、上部の躯体をスリム化できるメリットがある。今回の基本設計を精査する段階で建設コストについてはほぼ同等になった。免震層は地下の部分に置くことになるが、少し深く掘ることになり支持地盤に近づくことになる。耐震構造は杭工法で受けるものが、免震構造では簡素な構造で支持地盤に達することが可能になったというメリットがあり、コスト差が少なくなった。増築する場合については、免震層を設けることになり、その対応が難しくなることから免震構造のデメリットと考えられる。

東部長 一般的な免震構造にすると5～7パーセント程度工事費が高くなる。地盤調査をした結果、現在地はかなり地盤がいいという結果であった。支持基盤等の部分について一般的な場合よりは別な工法が可能であるということで軽減ができることになったことから、コスト的な部分で差がなくなってきた。

委員長 他に質疑はあるか。(なし)
(2)について報告済みとする。

委員長 2 その他について
前回の委員会で出ていた体外衝撃波破碎装置の購入について説明がある。
東部長 (別紙資料に基づき説明する。)
委員長 報告が終わった。質疑はあるか。(なし)ほかに何かあるか。(なし)
休憩する。

休 憩 12:14
再 開 12:17

委員長 再開する。

委員長 3 次回委員会の日程について
次回委員会は9月3日、午前10時から第一委員会室で開催する。
以上で第5回市立病院建替計画等調査特別委員会を閉会する。

閉 会 12:17